

道徳教育の充実

1 道徳教育の推進

今日の家庭や地域における教育機能の低下や社会全体のモラルの低下等は、多感な成長期にある児童生徒の道徳性の育成に大きな影響を与えている。こうした中、学校は、家庭や地域と一体となって、子どもたち一人一人の道徳的自覚を促し、自立をはぐくむ中で、人間としてよりよく生きていく道徳的実践力を育成する必要がある。そのためにも、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及び道徳の時間における指導が充実されなければならない。

平成14年度から実施した道徳教育実践研究指定事業では、平成17年度までの4年間に小・中学校60校を県内全地域に配置し、各市町では独自の道徳教育推進組織となる道徳教育推進協議会が設置されている。児童生徒の人格の基礎をなす道徳性の育成に向けた取組みを一層充実させるための基盤が整ったと言える。

今後は、各市町道徳教育推進協議会を中心に、授業研究や実践交流を活発に行い、家庭や地域を含めた取組みを一層充実させ、すべての学校において児童生徒の心に響く道徳教育を展開することが必要である。

2 学校体制の確立

(1) 道徳担当者の役割

学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育を展開していくためには、学校体制を整え校長のリーダーシップのもと教職員が一体となって取り組む必要がある。

平成17年度に実施した「『心の元気！』1000人フォーラム」の参加者アンケートでは、「道徳担当者（道徳主任）は、校務分掌上機能していると感じておられますか」の間に対して「とても」、「まあまあ」という回答が59%に止まっている。このことから、各学校は、校内における道徳担当者の役割を重視し、道徳担当者は、学校全体の道徳教育に対して指導的な役割を果たす責任を自覚して取り組むことが重要である。

- ア 道徳教育の全体計画や道徳の年間指導計画の立案に中心となって参画する。
- イ 各学年・学級の道徳の時間の実施内容項目の進行管理を行う。
- ウ 具体的な授業プランのサポートを行う。
- エ 学校行事や様々な体験活動等の企画段階から、諸活動のもつ道徳教育としての役割を的確に把握する。
- オ 家庭や地域の連携の窓口を担う。

(2) 教師と児童生徒の信頼関係

学校教育のあらゆる場を通して、教師と児童生徒の信頼関係をはぐくみ、児童生徒相互の人間関係の充実を図ることは、道徳教育の基本である。教師は、すべての教育

活動において一人一人の児童生徒に温かく接し、ともに考え、悩み、夢や感動を共有するという基本姿勢が求められる。また、教師が情熱をもって児童生徒と真正面から向き合い働きかけることで、児童生徒理解が深まるとともに、児童生徒の教師理解も進むのである。教師と児童生徒の信頼関係が構築され、児童生徒の内面を深く見つめながら展開される道徳教育の中で、より確かな児童生徒理解が生まれ、そのことが生徒指導にも生かされるのである。各校においては、自校の実態を把握するために様々な工夫を行い、その結果を指導に生かすことが大切である。

【平成 17 年度「基礎・基本」定着状況調査（生活などに関する調査）より】

項目	小学校 5 年生	中学校 2 年生
あなたをよく分かってくれる先生がいます	80.4%	54.9%
将来の夢や希望をもっています	88.1%	73.8%

（3）道徳的雰囲気を生み出す環境づくり

児童生徒の道徳性の育成において、環境の与える影響は極めて大きい。特に、児童生徒が、日々生活する学級や学校の環境は重要である。例えば廊下や教室の掲示物を工夫したり、校舎内にフラワーコーナーを設けたりするなどして道徳的環境を整えることは大切である。また、児童生徒を取り巻く環境の中で、教師自身が最も重要な要素であることを自覚し、平素から礼儀や節度ある態度を心掛け、学校の道徳教育の基本方針や学級経営方針が反映されるよう指導にあたることが大切である。



【整理整頓された教室】

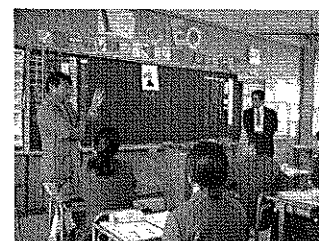
また、近年、「あいさつ運動」や「地域清掃活動」等の学校全体としての取組みを通して大きな成果をあげる学校が増えてきた。このように教職員が一体となって学校の中に道徳的風土を培う取組みが必要である。

（4）他の教師等との協力的な指導などの指導体制の工夫

学習指導要領には、「校長や教頭の参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し指導体制を充実すること」と示されている。

平成 14 年度から実施している道徳教育実践研究指定事業の成果普及によって、県内でも道徳の時間でのチームティーチングが積極的に取り組まれるようになってきた。このチームティーチングは、複数の教師がかかわることによって、児童生徒の学習効果が高まるという視点で取り組まれるべきものである。

例えば、資料の提示等で価値の対立場面を 2 人の教師が分担して演じることによって児童生徒を引き込んだり、対立的な話し合い場面や問題別・課題別に分かれる学習でそれぞれのグループを受け持ったりするなど、複数の教師がかかわる利点を生かした指導が行われている。



【校長参加による授業】

また、学校には様々な専門性や体験等をもつ教師がおり、これらの教師をゲストティーチャーとして生かす授業や、

校長や教頭が自らの人生観や夢を語ったり、愛校心について願いを語ったりする授業も見られる。

これらの取り組みでは、多様な授業展開が可能になるとともに、学級担任以外の教師の生き方に触れることができ、児童生徒に新鮮な感動や多様な見方・考え方等を感じさせることができる。また、児童生徒理解や授業中の評価が多面的にできるとともに、教師相互のよい研修の場にもなっている。

(5) 保護者や地域の人々の参加・協力による道徳授業

家族愛や誕生に関する生命尊重の主題に取り組む際に子どもや家族に対する深い愛情の溢れる授業を創ろうという教師の思いが高まったことや、総合的な学習の時間の定着とともに地域の人材が開拓されるなど、開かれた学校づくりが進み、最近、保護者や地域の人々を招いた道徳の授業が盛んに行われるようになってきている。児童生徒の心に響く道徳授業の創造に向けて教師のコーディネート力が求められている。

これらの授業には、①保護者が児童生徒とともに意見を述べ合ったり、グループの話し合いに加わったりする「参加型授業」、②ゲストティーチャーとして参加したり、思いを手紙に託したりするなどの「協力型授業」がある。



【保護者参加型授業】

最近の実践例では、小学校において保護者が児童とともに役割演技に取り組むことによって互いの立場に共感し、新しい認識をもたせる実践や、中学校において生徒とともに

にネームプレートを置いて大人の立場や考えを示し、その理由を説明することで、より深い考えや視点に導く実践が見られる。これらは、保護者の経験を生かし、保護者との心の交流をとおして授業のねらいを達成するために生まれた工夫である。

平成17年度『心の元気！』1000人フォーラムでは、保護者部会を設け、約90名の保護者の参加を得て道徳の模擬授業を行った。このときの参加者アンケートでは、学校における道徳教育に対する肯定的な意見が多かった。

- ・ 模擬授業は、とても楽しく参加させていただきました。大人の私も心を揺さぶられ「うーん」と心の中で考え込みました。この心の揺さぶりを子どもたちに感じてもらえたらと思います。道徳は生きる力をつけることにつながるとつくづく感じ、家庭でももっともっと親と子が関わり合い、豊かな心、生きる力を身に付けていかなくてはと思いました。
- ・ 道徳というものが何を勉強する授業なのかよく分からず、今日参加しましたが、“生き方などを子どもと先生がいっしょに深く考える時間”というのにとっても納得しました。私は保護者として、学校でどんな道徳教育が行われているかをもっとよく知り、家庭の中でも話題に出しながら、子どもと一緒に心を揺さぶる時間を持ちたいと思いました。 (保護者部会参加者アンケートより)

児童生徒の豊かな心をはぐくんでいくためには、道徳教育に対する家庭や地域の理解と協力が必要である。近年、道徳の授業を地域に公開し、その後で地域の方々と道徳教育について懇談をもつなどの取り組みが全国的に広がっている。本県でも、参観日

等を含め家庭や地域に道徳の授業を公開する学校は、年々増えている。今後一層、保護者や地域の方々に道徳教育についての理解を深めていただき、家庭・地域の協力を得た道徳教育の推進が求められる。

3 道徳の時間の指導

平成15年度に実施した「道徳教育推進状況調査」（文部科学省）によると、道徳の時間の実施授業時数は、小学校35.3時間（広島県35.8時間）、中学校33.6時間（広島県36.0時間）、とほぼ標準授業時間数に達している。一方で、平成17年発表の「義務教育に関する意識調査」（文部科学省）の中で、「教科等の好き嫌い」の間に対する道徳の時間の肯定的評価は、小学校第6学年で42.8%と、教科等の中で最も低い割合であった。道徳の時間は適正に実施されるようになってきたものの、児童生徒にとって、必ずしも魅力ある時間にはなっていないことが分かる。

一方で、本県の道徳教育実践研究指定校の児童生徒の約8割は、「道徳の時間が楽しい」「道徳の時間がためになる」と感じており、教師の多様な工夫によって子どもにとって魅力のある道徳の時間となっている。

(1) ねらいの明確化

道徳の時間は、児童生徒一人一人が、ねらいとする道徳的価値とのかかわりにおいて、自分の生活を見つめ、これからの自分にその価値を生かしていこうとする力を養う時間である。このことを理解し、

【ねらいを明確にした、「道徳の時間」の学習指導事例】

指導者	
1 日時	平成17年4月14日(木) 第3校時
2 学年	第1学年 男子12名 女子13名 計25名
3 主題名	心も体も元気で【1-(1) 望ましい生活習慣】
4 ねらい	マラソン大会に向けて、一生懸命練習に取り組む私の姿を通して、心も体も健康な生活をしようとする態度を育てる。
5 資料名	「明日へ出発」(中学校 読み物資料とその利用 文部省)
6 主題設定の理由	○ 望ましい生活習慣を身に付けることは、心身の健康を増進し、気力と活力に満ちあふれた充実した人生を送る上で欠くことのできないものである。また、心身を鍛え、調和のある生

授業のねらいを明確にすることが大切である。しかし、本時のねらいに、学習指導要領の道徳の内容をそのまま記述している場合がある。授業者は、児童生徒や学級の実態等を考え、活用する資料の特質を生かし、道徳的心情、判断力、実践意欲や態度を育成する視点を具体的に示す必要がある。

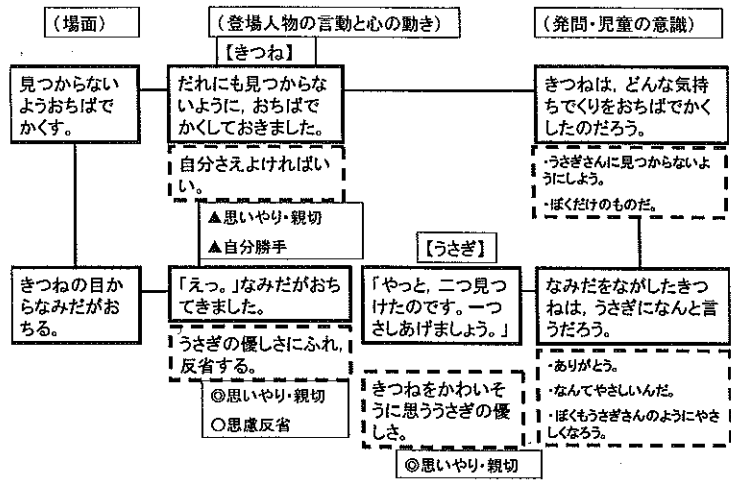
(2) 資料(教材)の選択・開発

道徳の時間に扱う資料(教材)は、ねらいを達成するための手がかりとして極めて大きな意味をもっている。活用する資料が児童生徒にどう受けとめられるかが、授業の成否に大きくかわる。「道徳教育推進状況調査」でも「道徳の時間の指導を一層充実させるために各教師に特に求められること」という問に対して、「教材の分析、魅力ある教材の選定及び開発・活用等の工夫」と約7割の教師が回答している。実際の道徳の時間では、各種機関が発刊している読み物資料が多く活用されているが、より魅力的な読み物資料を選択するとともに、児童生徒の心に響く多様な資料を開発、活用することが大切である。そのためには、普段から報道や図書、映画、児童生徒の作文など、様々な情報に視野を広げ、資料の素材を幅広く取材し、確保しておくことが大切である。

しかし、自作資料の開発にあたっては、他の教師と協力し、より魅力的な資料となるよう検討することが必要である。

(3) 発問の工夫

魅力的な資料を活用しても、資料を読ませて自由に感想を発表させるだけ、あるいは資料のあらすじを追うばかりではねらいにせまることはできない。ねらいにせまるためには、資料中の課題や道徳的価値に気付かせたり、自己を深く見つめさせたりすることが必要である。そのための重要な手がかりになるのが発問である。



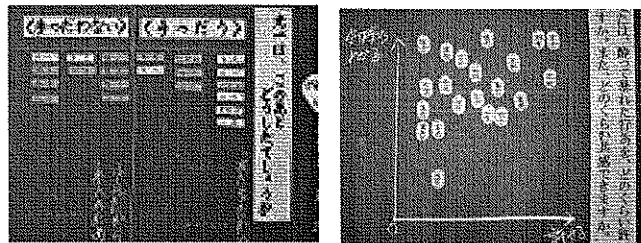
【資料「くりのみ」の資料分析例】

<発問を構成する手順>

- ①資料に含まれている道徳的価値などをしっかり分析する。
- ②中心課題となる中心発問を考える。
- ③それを生かすためにその前後の基本発問を考える。
- ④児童生徒の発言を予想し、繰り返し発問や補助発問を考える。

(4) 思いや考えを引き出す工夫

自己を深く見つめるためには、多様な考えに出会い、交流し、深め合うことが大切である。そのためには、自己の意見をしっかり持ち、他の児童生徒の意見と比較し、もう一度自己の意見を検討することが必要になる。しかし、学年が進むにつれて児童生徒の活発な意見交流や積極的な発言が出にくい場合がある。そこで、児童生徒の考えの違いや立場が見えるような工夫や活動の場の工夫により、児童生徒がより主体的に学習に参加できるようにすることが大切である。

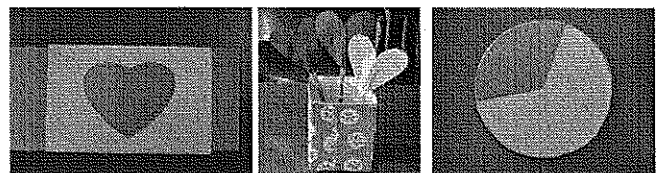


横軸での活用(小学校) 横軸・縦軸での活用(中学校)
【ネームプレートの活用例】

児童生徒の活発な意見交流や積極的な発言が出にくい場合がある。そこで、児童生徒の考えの違いや立場が見えるような工夫や活動の場の工夫により、児童生徒がより主体的に学習に参加できるようにすることが大切である。

ア 思いや考えを表す教具の工夫

自らの判断により、自分の立場や考えを示すためにカラーカードやネームプレート、自分の気持ちの程度を示すために心情グラフなどを活用すると効果的である。これらを活用することで、



【カラーカードや心情グラフの例】

学級の中の自分の立場や心情が確認でき、他との比較を行うなかで、自己を省察しな

から発言ができる。また、子ども同士や教師の意図的指名ができやすく、意見を類型化した話合いができる。さらには、自己の心の変容が客観的に把握でき、自己を見つめる目が豊かになる。

イ 指導形態の工夫

児童生徒が主体的に学習し、深く考えていくためには、指導方法の工夫とともに、活動の場の工夫も考えたい。特に座席の配置を工夫することも考えてみたい。

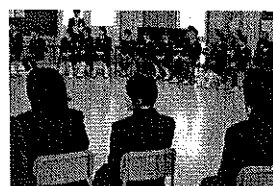
全員の表情が見えやすく、児童生徒同士の話合いが仕組みやすいコの字型、同意見や異なった意見の児童生徒が集まったり、班で話し合ったりするなどの小集団型、机をとり、動作化や役割演技などの表現活動や体験的な活動が仕組みやすい円形型など学習活動に応じた効果的な活動の場を設定したい。



【コの字型】



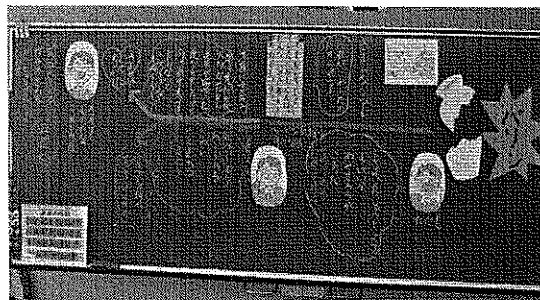
【小集団型】



【円形型】

(5) 板書の工夫

- ・資料のあらすじや登場人物の人間関係など、場面状況が把握できるようにする。
- ・児童生徒の思考の助けとなるような構造的な板書を行う。
- ・中心場面・課題が明らかになるようにする。
- ・色チョーク、場面絵、短冊、囲み、矢印などを活用し、視覚に訴える。
- ・発問などを、文字カードで提示する。
- ・児童生徒の発言は、短い言葉でまとめる。
- ・書く位置や書くタイミングを工夫する。



【構造的な板書例】

【板書の工夫例】

板書は、学級全員の共通のノートのようなものである。見やすく、分かりやすく、柔軟に用いることで、授業の中でその効果を発揮する。板書の効果として、次のようなことが考えられる。

- ・授業の進み具合や関連が明らかになり、学習の意欲や動機が高まる。
- ・ねらいとする価値について考えやすくなり、主題がとらえやすくなる。
- ・多様な価値観に気づき、考えを深めたり、広めたり、自己を見つめる鏡となる。
- ・発問の意図を理解し、話合いの焦点がはっきりし、効率的に話合いが進む。
- ・理解、感動の内容が共有的、共通的なものとなる。
- ・学習の整理、積上げに役立つ。

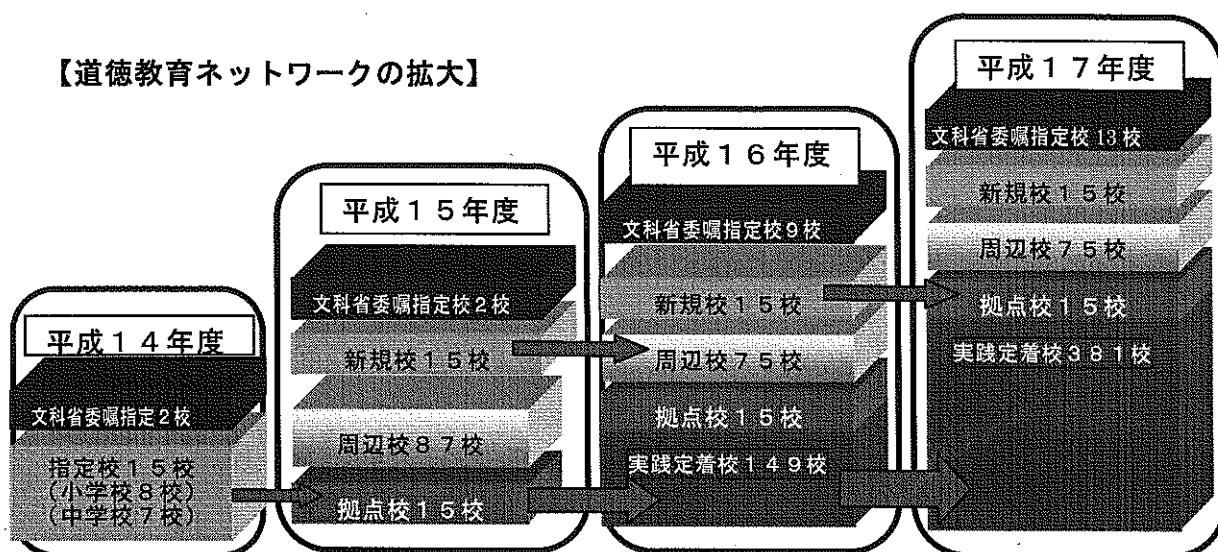
これらの効果的な板書を行うためには、児童生徒の心の動きを予想して、綿密な板書計画を立てることが大切である。

4 各市町道徳教育推進ネットワークの充実

これまで指定校は、成果を各地域に普及すべく周辺校を含めた研修会を定期的を開催し、道徳教育推進の拠点校としての役割を果たし、ネットワークの拡大に努めてきた。この研修会は、各市町における道徳教育の推進協議会として組織され、平成17年度末

には、全市町に設置されることとなった。

【道徳教育ネットワークの拡大】



これまで、この推進協議会では、市町内の小・中学校を会場に、各校の道徳担当者を集めての情報交換や授業研究が行われている。特に、指定校の道徳教育推進者が紹介する優れた実践例や演習方法などが各校に普及するとともに、校種や学校を越えて互いに授業を公開して研鑽しあう中で、人的なネットワークが広がりつつある。こうしたネットワークを活用して、読み物資料などの指導資料や視聴覚教材などの補助教材に係る情報が活発に交換されたり、地域素材を生かした資料や多様な指導方法が開発されたりすることは大変有意義なことである。

さらには、各推進協議会の優れた実践が、地域を越えて交流されたり、研修会の講師として他地域の実践者が招聘されたりするなどの交流が行われることによりネットワークの一層の充実が図られることになる。本県のすべての児童生徒の心に届く道徳教育を進めるためには、こうしたネットワークの重要性を理解し活用することが大切である。

5 道徳教育学習プログラムの開発

体験活動や地域人材を生かすなどして学校の教育活動全体を通じた道徳教育が進められる中、これらを意図的・計画的に行うとともに、重点とする内容項目についてより効果的に取り組むために、学習プログラムの開発が始まっている。

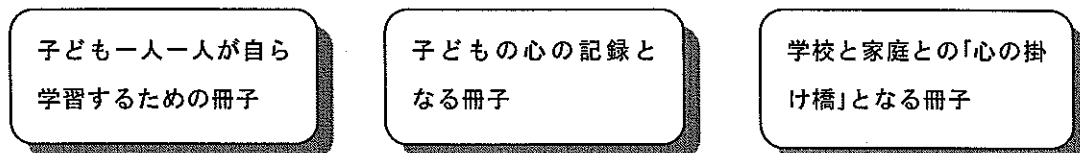
この学習プログラムには、総合単元的な道徳学習のようにある程度長い期間に多くの教科等との連携を図ったものから、学校の特色を生かしたり、創意工夫をして短期間に取り組まれるものもある。また、こうした学習プログラムは、各学校で伝統的に取り組まれてきた学習活動の中にも多く見受けられる。いずれも児童生徒の人格形成に必要な有意義な実践であり、長く引き継がれていくべきものである。

教育長のホームページでは、こうした優れた取組みを提供いただき県内に広く普及することを目的として「道徳教育学習プログラム集」のコーナーを設けた。例えば、「ことばの力」の育成と道徳教育との関連を図った学習プログラム「12歳の挑戦状」や「15歳の座右の銘」等の取組みを紹介している。

6 「心のノート」の活用

(1) 「心のノート」の性格

「心のノート」は、児童生徒が身に付ける道徳の内容をわかりやすく表したものであり、児童生徒が自己の生き方について考え、自ら道徳性をはぐくむためのものである。併せて、自己の生活や体験を振り返る「生活ノート」的な性格や、家庭との「掛け橋」としての性格をもっている。学校や家庭での生活や学習の中で、また、地域での生活を振り返るときに、児童生徒が自主的かつ積極的に活用し、道徳教育の一層の充実を図ろうとするものである。



「心のノート」の三つの特徴

(2) 「心のノート」をよりよく活用するために

ア 多様な場面での子どもの活用の工夫

(ア) 学校や家庭の日常生活の中で活用する

例) 朝や帰りの会の話合い、読書タイム、自由時間での活用、掲示コーナー

(イ) 各教科の学習内容との関連で活用する

例) 補助的な資料(調べ学習・話合い)、学習の導入・まとめ

(ウ) 道徳の時間の一部で活用する

例) 導入の題材、展開の補助資料、終末の題材

(エ) 特別活動の各内容と関連させて活用する

例) 学級活動にかかる指導、学校行事の事前・事後の指導、自治的活動の動機付け

(オ) 総合的な学習の時間の動機付けや自らの生き方を考える際に活用する

例) 課題を見つけるヒント、体験的な学習への動機付け

(カ) 学校・家庭・地域社会の連携を図るために活用する

例) 連絡協議会・懇談会での利用、公開授業、各種通信、地域掲示板

(キ) その他、各学校間の交流の際などに活用する

以上のような場面において、効果的に活用していくことが大切である。文部科学省より『「心のノート」を生かした道徳教育の展開—『心のノート』活用事例集(平成15年7月)』が発行されており、参考にしたい。

イ 「心のノート」活用における主な留意事項

(ア) 子どもが日常的に用いることを中心とする。

(イ) 各教科等ではその学習の特質に即して適切に用いる。

(ウ) 継続的、発展的に用いることができるようにする。

(エ) 子どものプライバシーに配慮する。

(オ) 保護者や地域の人々の協力が得られるようにする。

(カ) 簡単な約束などを決めて子どもが活用しやすいようにする。

7 高等学校における道徳教育

道徳教育は、高等学校においても小・中学校同様に学習指導要領の総則にその目標が示されており、「人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行う」ものとされている。また、社会の変化に対応して主体的に判断し行動するために、様々な体験や思索の機会を通して自らの考えを深めることにより、「自分にふさわしい、しかもよりよい生き方を選ぶ上で必要な、自分自身に固有な選択基準ないし判断基準」をもつことが求められている。

平成16・17年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業の指定校となった県立高等学校では、各教科等において道徳性育成の視点を明確にした授業展開を工夫するとともに、体験活動や地域と連携した取組みを通して道徳性をはぐくんできた。

今後は、これらの取組みを参考にするとともに、すべての高等学校において、それぞれの特色を生かした道徳教育についての意図的・計画的な実践がなされなければならない。そのために、まずは、高等学校における道徳教育の全体計画の作成や各教科等における指導内容を道徳教育の視点から整理し確認する必要がある。その過程において、教職員全員が学校のビジョンや目標、育てたい人間像に対する共通認識をもって日々の教育活動にあたることが大切である。

○各教科等で育むことのできる道徳的価値の分析(例) (県立福山明王台高等学校)

項目	1 生命 2 愛 3 日本人 4 自由 5 幸福 6 働く 7 人間							
	生命倫理	愛とは何か(恋愛、家族愛、思想家の愛)	日本人のものの見方・考え方	自由とは何か	進歩し続ける文明との関わり方	健全な勤労観の育成	人間とは何か、自分とは何か	
内容	脳死	温かい人間愛	精神風土	相互の人権を尊重する生き方とは	文明の発達に人間を幸福にしたか	職業と余暇	弱さ闘いの克服	
	クローン命への畏敬	無償の愛	比較文化		科学者の責任	ボランティア活動	元気な生き方	
	臓器移植と物心二元論等					福祉		
	宗教的なものの見方・考え方							
	関連価値	生命尊重 死生観 畏敬の念 自然崇拝 審美	思いやり 真実愛 人間愛	郷土愛 愛国心 文化の継承 文化の創造 誇り 異文化理解	権利と義務 公正公平 社会連帯 公徳心 自由	真の幸福 平和 国際理解 環境	勤労 自己実現 理想社会の実現 奉仕 相互扶助 感謝	自我同一性 自己肯定感 個性の伸長 個性の尊重
学習指導要領との関連	ア 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う	イ 豊かな心をはぐくむ	ウ 伝統的な文化を継承し、発展させ、さらに個性豊かな文化の創造に努める人間を育成する	エ 民主的な社会及び国家の形成発展に努める人間を育成する	オ 平和的な国際社会の実現に貢献できる人間を育成する	カ 未来を拓く主体性のある日本人を育成する	キ 道徳性を養う	
年次	教科	科目						
1	国語	国語総合A		「芥川」	「長月二十日のころ」			
		国語総合B	「城の崎にて」		「水の東西」	「草の言葉・魚の言葉」	「羅生門」	
1	公民	現代社会		社会保険・社会福祉		差別から共生へ	民主社会の倫理	
		理科総合B	「遺伝の法則」	「遺伝の法則」		「生物と環境とのかかわり」	「遺伝の法則」	
1	保健体育	保健	応急手当			感染症の予防	自己実現	
		音楽I						
1	美術I				木彫(ハガキ箱)			
		書道I			古典作品の臨書			
1	英語	英語I		*Totto-chan in Tanzania! "In Turn, In Turn!" -タンザニアの子供達の強さ・優しさ-		*A Class Divided-人種差別を考える-	*Dolphins' Power to Heal-自然との共生を考える-	*The World Is Waiting for You-日本人学生の海外ボランティア体験を通して-
		英語I					*Who Are the Best Ecologists?-環境問題についてディスカッション-	
1	家庭	家庭基礎	人生と家族・福祉生活と健康消費生活と環境	人生と家族・福祉生活と健康	人生と家族・福祉生活と健康	人生と家族・福祉生活と健康消費生活と環境	人生と家族・福祉生活と健康消費生活と環境	
		情報A				プライバシーへの配慮		
1	国語	現代文	「人間の中にあるヒト」			著作権について考える		
		古典	「葉上の君子」			電子メディアを通じたコミュニケーション		
1	地理	世界史B	死者の書・仏教	キリスト教・儒教		近代市民革命	ナイティンゲール	カンティール・キング牧師

○高等学校における道徳教育全体計画（例）

（県立松永高等学校）

道徳教育全体計画

